

# Suma Tomogaoka 通信

兵庫県立須磨友が丘高等学校 総合学科推進部  
令和5年度 第2号 7/18

## 教育実習生に聞く

5月29日から3週間の実習を終えました。学習活動だけでなく、文化祭への取り組みに参加するなど貴重な経験が出来たと思います。実習生の皆さんに須磨友が丘での学びが、その後の学生生活にどのような影響があったかを振り返ってもらいました。

### ■ 須磨友が丘での「総合学科」としての学びの中で、何が興味深く、意欲を持って取り組みましたか？

- ・私が須磨友が丘高校に入学したいと思った理由は、自分が将来に描いている像のため、キャリアを形成するためです。在学中は、興味を持っていたスポーツや教育といった分野について、産社の職場体験や選択科目の中で学びを深めることができたと思います。
- ・特に選択科目である「異文化理解」の授業が最も興味深く、印象に残っています。実際に外国の方が来校し、直接文化に触れる機会は大変貴重でした。
- ・「スポーツ医療と栄養」の授業で、テーピングの貼り方やパフォーマンス向上を目指したストレッチ、準備運動を学ぶことができたのがとても良かったです。

### ■ 須磨友が丘高校での「総合学科」ならではの学びとは、あなたにとってはどのような学びでしたか？

- ・須磨友が丘高校に来るまで自分の将来像や、やりたいことなどが明確に決まっていなかったですが、様々な選択科目があり、それを自分で選択して学ぶことで、自分としっかり向き合うことができ、将来を考えることができました。
- ・私にとっての総合学科の学びは、自分の意見や考えを引き出してくれる学びであったと思います。自分の考えを表現してまとめることが苦手な私にとっては苦労しましたが、やり切ったときの達成感などで、それが苦ではなく当たり前になっていることに気がきました。



回答・協力していただいた教育実習生のみなさん

### ■ 須磨友が丘高校で経験したことが、大学に進学してから生かされたと感じたことはありましたか？

- ・総合学科により高校の時点で、大学で何を研究したいのかを考え、そのために論文を作成・発表した学びが基盤となり、大学卒業までの明確な見通しを持つことができました。これが普通科高校との大きな違いであると、今になって実感しています。
- ・課研をしている時は「あーしんどいな」とか思っていたのですが、今思い返すと、すごいことをしたと思えて、これからの卒業論文に向けての自信にも繋がっています。また、人前で話すことやスライド資料の作り方など、周りの学生との差をつけることもできたと思います。そして、自ら探究する楽しさを学ぶこともできました。

## 1年次 ミニ体験授業

6月13・14日、27・28日の放課後に、来年度の科目選択を控えた1・2年次生を対象に、ミニ体験授業が行われました。総合学科の特徴でもある多様な選択科目の中でも、「中国語」や「ソルフェージュ」といった特色ある科目について紹介されます。生徒たちは、体験活動や実習を通して、各科目の魅力や特徴を知ることができました。



ソルフェージュ



中国語

## 1年次 産業社会と人間 一適性検査一

5月26日（金）に職業・学問適性検査（R-CAP）の振り返りをしました。高校に入学してまだ間もないですが、なりたい職業や学びたい学問が明確にある人もそうでない人も、この適性検査を受けることで、自分に向いている職業や学問を客観的に分析することができます。世の中には自分の知らない職業や名前だけではどんなことを学んでいるのかわからない学問がたくさんあります。意外な結果が返ってきた人もいるようですが、今回の結果を参考に、いろんな可能性を探りながら自分の将来を見つけてほしいと思います。

### 【生徒の感想より】（抜粋）

- ・自分の興味だけを見ていた職業以外にも、自分の適性から予想外の職業があり、他者から見てもらった自分の適性を知ることができたので良かった。
- ・これから自分の進路を決めていくことになると思うけど、まずはどんなものがあるのか、特定のものではなく幅広く見て自分の可能性をつぶさないようにしていきたい。
- ・今回この授業を通して、やってみたい、学んでみたいと感ずることがたくさんあったから積極的に学んでいこうと思う。
- ・全然知らない職業を勧められて、「なんでこれ？」となったものもありましたが、知らない職業について知れてよかったです。
- ・職業の適合度では、自分が知らない職業が一番適性が高いことにびっくりした。同じように学問の適性ランキングでも意外なものが多かった。だから家に帰ってもっと職業や学問について調べてみようと思った。



## 2年次 課題研究1

いよいよ本格的に各系列やゼミごとに研究が始まりました。研究の初めのステップとして、自分の興味や関心の範囲を探る・広げるために、「キーワードリスト」を作成し、それをもとにしてiPadを使ってウィキサーフィンをしたり、図書館で書籍を探しました。また、新聞記事を要約し、グループで感想を共有する活動等も行いました。各自、研究テーマがなかなか決まらないという課題に直面し、ゼミの先生と面談を重ね、アイデアの出し方や研究の方向性についてアドバイスを受けました。先生方の助言を通じて、より具体的な研究テーマに絞っているところです。さて、夏休みに入りますが、この時期は課題研究で貴重な期間です。

インタビューを行ったり、論文のピースを集めるために調査・学習を深めることが求められます。それぞれの研究テーマに合わせて、具体的な方法やアプローチを考えて取り組んでいきます。ただ、例年、夏休みに何も進まない生徒もいると聞きます。そうならないように事前に計画を立て、研究に情熱を失うことなく調査や実践を通じて研究を前に進めていきましょう。

## 3年次 課題研究2

6系列の20ゼミで6月中にゼミ内発表会を行いました。2年次から行ってきた研究の総仕上げとして、パワーポイントを使い7分の発表にまとめました。研究にオリジナリティや深まりが感じられ、緊張感の中でお互いに興味を刺激し合う充実した時間となりました。発表を観ながら相互に評価し、各ゼミから代表者が選出されました。各ゼミの代表者はさらにブラッシュアップした発表を7月11日、18日に行われる全体発表会で行ってほしいと思います。



### 【生徒の感想より】

- ・はじめはテーマだけ決めて、どんなことから始めたらいいのか全く分からなかったけど、夏休みに先生と何度も面談をして、論点が変わりそうになっても、先生が指摘してくださったおかげで研究をやり切れませんでした。今回の課題研究では、1年以上の長い期間を通して、自分の研究に没頭できました。テーマ決め、定義づけ、根拠、1つ1つ考えたり行動したりするのはしんどい時もあったけど、最後まで頑張れました。
- ・私は、問いを立てること、小さな疑問を持つことが、最初の頃よりできるようになりました。元々、問いを立てること、納得するまで調べ続けることが苦手だったので、これが一番の成長だと感じます。
- ・僕は人前で話すことへの抵抗が小さくなった。何度も発表してきたからというのもあるけど、それよりも自分が何をきて、何を伝えたいかを自分が理解することができていたから不安がどんどん小さくなっていったのだと思う。人前で話すことは、どれだけその発表に対して準備してきたかで決まると思う。自信を持った自分の作品ならば、どんなところでどんな人を前にしても堂々とすることができることを知った。この経験を生かして今後プレゼンをする機会では、一生懸命準備することを頑張ろうと思う。
- ・課題研究では、自分の出来ていないところが丸裸になったと感じています。情報集めの方法や検証方法など、いろいろ後悔している点はありますが、これから先も似たような機会はきっと何度も巡ってくるので、このような悔しい思いをしないよう、反省し頑張りたいと思います。